

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5457914号
(P5457914)

(45) 発行日 平成26年4月2日(2014.4.2)

(24) 登録日 平成26年1月17日(2014.1.17)

(51) Int.Cl.		F I			
G06Q	30/06	(2012.01)	G06Q	30/06	140G
G06Q	30/02	(2012.01)	G06Q	30/02	150
G06F	3/048	(2013.01)	G06F	3/048	651A
			G06F	3/048	654D

請求項の数 16 (全 24 頁)

(21) 出願番号	特願2010-81993 (P2010-81993)	(73) 特許権者	399037405 楽天株式会社 東京都品川区東品川四丁目12番3号
(22) 出願日	平成22年3月31日(2010.3.31)	(74) 代理人	110000958 特許業務法人 インテクト国際特許事務所
(65) 公開番号	特開2011-215770 (P2011-215770A)	(74) 代理人	100083839 弁理士 石川 泰男
(43) 公開日	平成23年10月27日(2011.10.27)	(74) 代理人	100120189 弁理士 奥 和幸
審査請求日	平成24年4月17日(2012.4.17)	(72) 発明者	落合 由紀子 東京都品川区東品川四丁目12番3号 楽 天株式会社内
		審査官	大野 朋也

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 サーバ装置、商品表示方法、商品表示プログラム及び商品表示システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ネットワークを介して端末装置に接続されるサーバ装置であって、
複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とを対応付けて記憶する記憶手段と、

ユーザが注文することを予定する商品を注文予定商品として所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を前記端末装置から受信する受信手段と

、
前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段と

10

、
前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段と、

前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段と、

前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品と前記グループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段と、

20

を備えることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のサーバ装置であって、

前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数でないと判定された場合において、

前記表示順位決定手段は、前記表示順位を決定する処理を行わず、

前記送信手段は、前記注文予定商品が所属する単一のグループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データを上記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信することを特徴とするサーバ装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載のサーバ装置であって、

前記商品表示データは、当該商品表示データで表示されるグループの所属商品をユーザが個別に注文予定商品として選択できる画面を表示させるデータであることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、

前記記憶手段は、ユーザを識別するユーザ識別情報をグループと対応付けて更に記憶し

、前記受信手段は、前記端末装置から、前記注文予定商品情報が示す注文予定商品を選択するユーザのユーザ識別情報を受信し、

前記抽出手段は、前記記憶手段を参照し、前記受信手段で受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを抽出することを特徴とするサーバ装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のサーバ装置であって、

前記受信手段は、前記端末装置から、ユーザにより作成されたグループに関するユーザ作成グループ情報として、そのグループの所属商品及びグループ名を示すユーザ作成グループ情報を更に受信し、

前記受信手段で受信したユーザ作成グループ情報に基づいて、ユーザにより作成されたグループとそれに所属する所属商品とグループ名とを、そのユーザのユーザ識別情報と対応付けて前記記憶手段に記憶させるグループ編集手段をさらに備えることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 6】

請求項 4 又は 5 に記載のサーバ装置であって、

前記抽出手段は、前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する 1 以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から仮抽出した後に、前記記憶手段を参照して前記受信手段において受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを取得し、当該取得したグループと先に仮抽出したグループとを照合して一致したグループのみを本抽出することを特徴とするサーバ装置。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、

前記商品表示データは、前記表示順位が上位であるグループの所属商品及びグループ名を優先して表示させるデータであることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 8】

請求項 1 乃至請求項 7 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、

前記商品表示データは、全ての所属商品が注文予定商品として選択されているグループ以外のグループについて、所属商品とグループ名とを表示させるデータであることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 9】

請求項 1 乃至請求項 8 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、

前記商品表示データは、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品の中から前

10

20

30

40

50

記注文予定商品を削除したデータであることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 10】

請求項 1 乃至請求項 9 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、
前記各グループは、料理のレシピに基づくグループであることを特徴とするサーバ装置

【請求項 11】

請求項 1 乃至請求項 10 の何れか一項に記載のサーバ装置であって、
前記ユーザが前記注文予定商品として選択する商品は、ネットスーパーで扱われている商品であることを特徴とするサーバ装置。

【請求項 12】

コンピュータが、ネットワークを介して接続される端末装置から、ユーザが注文することを予定する注文予定商品を所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を受信するステップと、

コンピュータが、複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とが対応付けられて記憶されている記憶手段を参照し、前記受信した注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する 1 以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出するステップと、

コンピュータが、前記抽出した前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定するステップと、

コンピュータが、前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定した場合は、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定するステップと、

コンピュータが、前記決定した表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出した各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記受信に対応して前記端末装置に送信するステップと、

を含むことを特徴とする商品表示方法。

【請求項 13】

コンピュータを、

ネットワークを介して接続される端末装置から、ユーザが注文することを予定する注文予定商品を所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を受信する受信手段、

複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とが対応付けられて記憶されている記憶手段を参照し、前記受信手段において受信された注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する 1 以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段、

前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段、

前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段、

前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段、

として機能させることを特徴とする商品表示プログラム。

【請求項 14】

端末装置と、ネットワークを介して前記端末装置から接続されるサーバ装置とを備える商品表示システムであって、

前記サーバ装置は、

複数のグループについて、各グループに所属する所属商品とグループ名とを対応付けて

10

20

30

40

50

記憶する記憶手段と、

ユーザが注文することを予定する商品を注文予定商品として所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を前記端末装置から受信する受信手段と、

前記受信手段において受信された注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段と、

前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段と、

前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段と、

前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段と、

を備え、

前記端末装置は、

ユーザが注文予定商品を所定数選択する都度、前記注文予定商品情報を前記サーバ装置に送信する注文予定商品情報送信手段と、

前記サーバ装置から前記商品表示データを受信する商品表示データ受信手段と、

前記受信した表示順位情報の示す表示順位に基づいて、前記受信した商品表示データによって特定される1以上のグループについて、所属商品とグループ名とを表示部に表示させる表示手段と、

を備えることを特徴とする商品表示システム。

【請求項15】

請求項14に記載の商品表示システムであって、

前記記憶手段は、ユーザを識別するユーザ識別情報をグループと対応付けて更に記憶し

、前記受信手段は、前記端末装置から、前記注文予定商品情報が示す注文予定商品を選択するユーザのユーザ識別情報を受信し、

前記受信手段は、前記端末装置から、ユーザにより作成されたグループに関するユーザ作成グループ情報として、そのグループの所属商品及びグループ名を示すユーザ作成グループ情報を更に受信し、

前記サーバ装置は、前記受信手段で受信したユーザ作成グループ情報に基づいて、ユーザにより作成されたグループとそれに所属する所属商品とグループ名とを、そのユーザのユーザ識別情報と対応付けて前記記憶手段に記憶させるグループ編集手段をさらに備え、

前記抽出手段は、前記記憶手段を参照し、前記受信手段で受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを抽出することを特徴とする商品表示システム。

【請求項16】

請求項15に記載の商品表示システムであって、

前記抽出手段は、前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から仮抽出した後に、前記記憶手段を参照して前記受信手段において受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを取得し、当該取得したグループと先に仮抽出したグループとを照合して一致したグループのみを本抽出することを特徴とする商品表示システム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、サーバ装置、商品表示方法、商品表示プログラム及び商品表示システムの技術分野に関する。

10

20

30

40

50

【背景技術】

【0002】

近年、インターネット上に店舗を出店するショッピングサイトが知られている。ショッピングモールのユーザ（利用者）は、ショッピングサイトからユーザ端末に送信されたWebページを通じて、出店者がショッピングサイトに出品した商品の中から所望の商品を選択し、注文手続きを経て、選択した商品を注文できるようになっている（例えば、特許文献1参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2002-236694号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、こうしたショッピングモールサイトにおいて、注文者は複数の商品を注文する際に、注文すべき商品を注文し忘れる場合がある。一般に消費者が買い物等をする場合、商品の目的・用途を考えながら注文商品を選択する。したがって、注文し忘れた商品があると、当初の目的を達成できなくなってしまう場合もある。

【0005】

本発明は、こうした問題点に鑑みてなされたものであり、その課題の一例は、ユーザが商品を注文する際、注文し忘れが生じにくいサーバ装置、商品表示方法、商品表示プログラム及び商品表示システムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するために、請求項1に記載の発明は、ネットワークを介して端末装置に接続されるサーバ装置であって、複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とを対応付けて記憶する記憶手段と、ユーザが注文することを予定する商品を注文予定商品として所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を前記端末装置から受信する受信手段と、前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段と、前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段と、前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段と、前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品と前記グループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段と、を備えることを特徴とする。

【0007】

この発明によれば、ユーザが注文予定商品を所定数選択する都度、選択した商品が所属するグループに属する商品をそのグループの名称とともにグループ毎に表示させることができる。これにより、グループに所属する他の商品が必要な場合に、ユーザの注文し忘れが生じる可能性を低くすることができる。また、注文し忘れないまでも、グループに所属する他の商品の注文を考えていた場合にそれらの商品を検索等して1つ1つ注文する煩雑さを抑制することができる。ここで、商品とは市場で取引されるものをいう。

また、注文予定商品を多く含むグループほど、ユーザが当該グループに属する商品を注文する蓋然性が高いと考えられることから、所属商品が注文予定商品である数が多いグループから順に表示順位をつけることにより、ユーザが注文する蓋然性が高い商品を優先して提示することができ、ユーザの利便性を向上させることができる。

10

20

30

40

50

【0008】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のサーバ装置であって、前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数でないと判定された場合において、前記表示順位決定手段は、前記表示順位を決定する処理を行わず、前記送信手段は、前記注文予定商品が所属する単一のグループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データを上記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信することを特徴とする。

請求項3に記載の発明は、請求項1又は2に記載のサーバ装置であって、前記商品表示データは、当該商品表示データで表示されるグループの所属商品をユーザが個別に注文予定商品として選択できる画面を表示させるデータであることを特徴とする。

10

【0009】

この発明によれば、商品グループ単位で商品をすべて注文しなければならないということがないため、ユーザが必要に応じて商品を選択して注文することができる。

【0010】

請求項4に記載の発明は、請求項1乃至3の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記記憶手段は、ユーザを識別するユーザ識別情報をグループと対応付けて更に記憶し、前記受信手段は、前記端末装置から、前記注文予定商品情報が示す注文予定商品を選択するユーザのユーザ識別情報を受信し、前記抽出手段は、前記記憶手段を参照し、前記受信手段で受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを抽出することを特徴とする。

20

【0011】

この発明によれば、ユーザの行動特性に合わせて商品グループを対応付けておくことにより、ユーザの行動特性に合った商品グループに基づいて商品を提示することができる。

【0012】

請求項5に記載の発明は、請求項4に記載のサーバ装置であって、前記受信手段は、前記端末装置から、ユーザにより作成されたグループに関するユーザ作成グループ情報として、そのグループの所属商品及びグループ名を示すユーザ作成グループ情報を更に受信し、前記受信手段で受信したユーザ作成グループ情報に基づいて、ユーザにより作成されたグループとそれに所属する所属商品とグループ名とを、そのユーザのユーザ識別情報と対応付けて前記記憶手段に記憶させるグループ編集手段をさらに備えることを特徴とする。

30

【0013】

この発明によれば、ユーザは自分の行動特性に応じた商品グループを予め作成しておくことで、当該商品グループに対応する商品を注文する際の注文し忘れを防止することができる。

【0014】

請求項6に記載の発明は、請求項4又は5に記載のサーバ装置であって、前記抽出手段は、前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から仮抽出した後に、前記記憶手段を参照して前記受信手段において受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを取得し、当該取得したグループと先に仮抽出したグループとを照合して一致したグループのみを本抽出することを特徴とする。

40

請求項7に記載の発明は、請求項1乃至請求項6の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記商品表示データは、前記表示順位が上位であるグループの所属商品及びグループ名を優先して表示させるデータであることを特徴とする。

【0016】

請求項8に記載の発明は、請求項1乃至請求項7の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記商品表示データは、全ての所属商品が注文予定商品として選択されているグループ以外のグループについて、所属商品とグループ名とを表示させるデータであることを特徴とする。

【0017】

50

この発明によれば、注文し忘れ防止の観点からユーザに提示する必要のないグループに属する商品を提示しなくて済むことから、商品選択画面の視認性を向上させることができる。

【0018】

請求項9に記載の発明は、請求項1乃至請求項8の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記商品表示データは、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品の中から前記注文予定商品を削除したデータであることを特徴とする。

請求項10に記載の発明は、請求項1乃至請求項9の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記各グループは、料理のレシピに基づくグループであることを特徴とする。

【0019】

この発明によれば、料理に用いられる商品について注文し忘れが生じる可能性が低いことから、注文し忘れにより目的とする料理が出来ずに他の材料が無駄になるなどの不利益が生じることを防止することができる。特に、料理の材料となるのは生鮮食品等の保存期間に限りがあるもの、短いものが多いため、目的を達成できなかった場合に次回使われるまでの間に廃棄処分となる可能性がありうるため有効である。

【0020】

請求項11に記載の発明は、請求項1乃至請求項10の何れか一項に記載のサーバ装置であって、前記ユーザが前記注文予定商品として選択する商品は、ネットスーパーで扱われている商品であることを特徴とする。

【0021】

ネットスーパーでは、生鮮食品などの比較的単価の低い商品が大量に扱われており、1つの目的・使用方法（例えば、料理のレシピ）に対して関連性のある複数商品群が一度に注文されることも少なくない。この発明によれば、ユーザは、グループに所属する商品群の中に注文し忘れ商品がないか、確認しながら商品を選択することができる。

【0022】

請求項12に記載の発明は、コンピュータが、ネットワークを介して接続される端末装置から、ユーザが注文することを予定する注文予定商品を所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を受信するステップと、コンピュータが、複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とが対応付けられて記憶されている記憶手段を参照し、前記受信した注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出するステップと、コンピュータが、前記抽出した前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定するステップと、コンピュータが、前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定した場合は、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定するステップと、コンピュータが、前記決定した表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出した各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記受信に対応して前記端末装置に送信するステップと、を含むことを特徴とする商品表示方法である。

【0023】

請求項13に記載の発明は、コンピュータを、ネットワークを介して接続される端末装置から、ユーザが注文することを予定する注文予定商品を所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を受信する受信手段、複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品とグループ名とが対応付けられて記憶されている記憶手段を参照し、前記受信手段において受信された注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段、前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段、前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段、前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手

10

20

30

40

50

段にて抽出された各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段、として機能させることを特徴とする商品表示プログラムである。

【0024】

請求項14に記載の発明は、端末装置と、ネットワークを介して前記端末装置から接続されるサーバ装置とを備える商品表示システムであって、前記サーバ装置は、複数のグループについて、各グループに所属する所属商品とグループ名とを対応付けて記憶する記憶手段と、ユーザが注文することを予定する商品を注文予定商品として所定数選択する都度、当該選択された注文予定商品を示す注文予定商品情報を前記端末装置から受信する受信手段と、前記受信手段において受信された注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から抽出する抽出手段と、前記抽出手段において抽出された前記注文予定商品が所属するグループ数が複数か否かを判定する判定手段と、前記判定手段において前記注文予定商品が所属するグループ数が複数であると判定された場合に、前記注文予定商品が所属する複数のグループの前記端末装置における表示順位を予め定めた規則に基づいて決定する表示順位決定手段と、前記表示順位決定手段において決定された表示順位を示す表示順位情報と、前記抽出手段にて抽出された各グループの所属商品とグループ名とを表示させる商品表示データとを、前記注文予定商品情報の受信手段における受信に対応して前記端末装置に送信する送信手段と、を備え、前記端末装置は、ユーザが注文予定商品を所定数選択する都度、前記注文予定商品情報を前記サーバ装置に送信する注文予定商品情報送信手段と、前記サーバ装置から前記商品表示データを受信する商品表示データ受信手段と、前記受信した表示順位情報の示す表示順位に基づいて、前記受信した商品表示データによって特定される1以上のグループについて、所属商品とグループ名とを表示部に表示させる表示手段と、を備えることを特徴とする。

請求項15に記載の発明は、請求項14に記載の商品表示システムであって、前記記憶手段は、ユーザを識別するユーザ識別情報をグループと対応付けて更に記憶し、前記受信手段は、前記端末装置から、前記注文予定商品情報が示す注文予定商品を選択するユーザのユーザ識別情報を受信し、前記受信手段は、前記端末装置から、ユーザにより作成されたグループに関するユーザ作成グループ情報として、そのグループの所属商品及びグループ名を示すユーザ作成グループ情報を更に受信し、前記サーバ装置は、前記受信手段で受信したユーザ作成グループ情報に基づいて、ユーザにより作成されたグループとそれに所属する所属商品とグループ名とを、そのユーザのユーザ識別情報と対応付けて前記記憶手段に記憶させるグループ編集手段をさらに備え、前記抽出手段は、前記記憶手段を参照し、前記受信手段で受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを抽出することを特徴とする。

請求項16に記載の発明は、請求項15に記載の商品表示システムであって、前記抽出手段は、前記受信手段において受信された前記注文予定商品情報の示す注文予定商品が所属する1以上のグループを、前記記憶手段が記憶しているグループの中から仮抽出した後に、前記記憶手段を参照して前記受信手段において受信したユーザ識別情報と対応付けられているグループを取得し、当該取得したグループと先に仮抽出したグループとを照合して一致したグループのみを本抽出することを特徴とする。

【発明の効果】

【0025】

したがって、本発明によれば、ユーザが注文予定商品を所定数選択する都度、選択した商品と同じ商品グループに属する商品とその商品グループの名称とともにグループ毎に表示させることができる。これにより、ユーザの注文し忘れが生じる可能性を低くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図1】本実施形態に係る注文受付システムの構成の一例を示す図である。

10

20

30

40

50

【図2】本実施形態に係る注文受付サーバの構成の一例を示すブロック図である。

【図3】各種データベースに登録される内容の一例を示す図である。

【図4】本実施形態に係るグループDBの登録内容の一例を説明するための図である。

【図5】商品選択画面の一例を示す図である。

【図6】商品選択画面表示時における注文受付サーバ及びユーザ端末の処理例を示すフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0027】

以下、図面を参照して本発明の実施形態について説明する。なお、以下に説明する実施の形態は、注文受付システムに対して本発明を適用した場合の実施形態である。

10

【0028】

[1. 注文受付システムの構成及び機能概要]

先ず、図1を用いて本発明の一実施形態に係る注文受付システムSの構成及び概要機能について説明する。

【0029】

図1に示すように、注文受付システムS(「商品表示システム」の一例)は、注文受付サーバ1(「サーバ装置」の一例)と、ユーザ端末2(「端末装置」の一例)と、店舗端末3と、を含むネットスーパーサイトとして構成されている。なお、図1の例では、説明の便宜上、一つのユーザ端末2を示しているが、実際には多数のユーザ端末から注文受付サーバ1にアクセス可能となっている。同様に、店舗端末3もネットスーパーサイトに参加するスーパーマーケット又は支店の数だけ存在する。ここで、ネットスーパーとは、既存のスーパーマーケットや店舗を持たない宅配専門の業者がインターネット上に設けたネットスーパーサイトを介して商品の注文を受け付け、注文者宅まで注文商品を届ける宅配サービスである。

20

【0030】

注文受付サーバ1、ユーザ端末2、及び店舗端末3は、ネットワークNWを介して、例えば、通信プロトコルにTCP/IP等を用いて相互にデータの送受信が可能になっている。なお、ネットワークNWは、例えば、インターネット、専用通信回線(例えば、CATV(Community Antenna Television)回線)、移動体通信網(基地局等を含む)、及びゲートウェイ等により構築されている。

30

【0031】

注文受付サーバ1は、複数の店舗が参加するネットスーパーサイトを運営するために設置されるサーバであり、ユーザ端末2から商品の注文を受け付け、注文内容を指定された店舗の店舗端末3で確認できるようにする。特に本実施形態の注文受付サーバ1は、注文者が商品選択画面(図5)において注文商品を選択する都度、同時に購入すべき商品で構成される複数のグループのうち、選択された商品と同じグループに属する商品を注文者に提示する機能を備えている。

【0032】

ユーザ端末2は、Webブラウザ機能を有し、注文受付サーバ1に例えばHTTP(Hyper Text Transfer Protocol)リクエストを送信してそのレスポンスとしてWebページ等を取得し、ディスプレイ上に表示するようになっている。ユーザ端末2のユーザは、ネットスーパーサイトや出店者サイトから提供される情報提供サービスを利用することができる。なお、ユーザ端末2には、例えば、パーソナルコンピュータ、PDA(Personal Digital Assistant)、携帯電話機等が適用可能である。

40

【0033】

店舗端末3は、ユーザ端末2と同様に、Webブラウザ機能を有し、注文受付サーバ1に例えばHTTP(Hyper Text Transfer Protocol)リクエストを送信してそのレスポンスとしてWebページ等を取得し、ディスプレイ上に表示するようになっている。また、店舗端末3は、注文受付サーバ1にアクセスし、注文受付サーバ1に蓄積された注文内容をディスプレイ上に表示するようになっている。これにより、店舗のスタッフは、自店舗

50

に対する注文を確認できる。

【 0 0 3 4 】

[2 . 注文受付サーバ 1 の構成]

次に、注文受付サーバ 1 の構成について、図 2 及び図 3 を用いて説明する。

【 0 0 3 5 】

図 2 に示すように、注文受付サーバ 1 は、通信部 1 1 と、記憶部 1 2 と、入出力インターフェース部 1 3 と、システム制御部 1 4 と、を備えている。そして、システム制御部 1 4 と入出力インターフェース部 1 3 とは、システムバス 1 5 を介して接続されている。

【 0 0 3 6 】

通信部 1 1 は、ネットワーク NW に接続して、ユーザ端末 2 又は店舗端末 3 との通信状態を制御するようになっている。

10

【 0 0 3 7 】

記憶部 1 2 (「記憶手段」 の一例) は、例えば、ハードディスクドライブ等により構成されている。また、記憶部 1 2 には、会員 DB (Data Base) 1 2 1 、店舗 DB 1 2 2 、在庫 DB 1 2 3 、グループ DB 1 2 4 、商品所属グループ DB 1 2 5 、会員グループ DB 1 2 6 、及び注文受付 DB 1 2 6 が構築されている。

【 0 0 3 8 】

図 3 (A) に示す会員 DB 1 2 1 には、会員登録された会員 (ネットスーパーの利用者であり、商品の注文者) の会員 ID (「ユーザ識別情報」 の一例) 、認証パスワード、会員名称、会員住所、会員電話番号、メールアドレス、届先名称、届先住所、及び届先電話番号等を示す会員情報が登録されている。会員情報は、会員 ID によって会員毎に判別可能になっている。ここで、会員 ID は、会員を識別するための識別子である。また、届先は、ネットスーパーで購入した商品の配達先を意味する。また、会員 ID 及び認証パスワードは、ログイン処理 (会員の認証処理) に使用されるログイン情報である。

20

【 0 0 3 9 】

図 3 (B) に示す店舗 DB 1 2 2 には、ネットスーパーに出店しているスーパーマーケット (支店も含む) の店舗 ID 、店舗名称、店舗住所、店舗電話番号、配達可能地域及び配達可能時間等を示す店舗情報が登録されている。配達可能時間としては、複数の時間帯が登録されている。例えば、配達可能時間として「 8 時から 1 0 時」、「 1 0 時から 1 2 時」、「 1 2 時から 1 4 時」、・・・、及び「 1 8 時から 2 0 時」と登録される。店舗情報は、店舗 ID によってネットスーパーに出店しているスーパーマーケット、又は支店ごと毎に判別可能になっている。ここで、店舗 ID は、出店店舗又は出店支店を識別するための識別子である。

30

【 0 0 4 0 】

図 3 (C) に示す在庫 DB 1 2 3 には、店舗 ID 、及び当該店舗 ID で識別される店舗で取り扱われる商品の商品 ID 毎に、在庫数量を示す在庫情報や、商品名称、販売価格、仕入価格、生産地・製造地、規格及び画像 ID を示す商品情報が登録されている。規格とは、商品の大きさや容量などのことである。商品 ID は商品を識別するための識別子である。画像 ID は商品画像を識別するための識別子である。商品画像は図示しない画像 DB に画像 ID と対応付けられて登録されている。在庫 DB 1 2 3 に登録されている在庫情報は、各店舗に設置されている店舗端末 3 から受信する情報に基づいて適宜更新されるようになっている。また、在庫 DB 1 2 3 を注文受付サーバ 1 ではなく、各店舗に設置される店舗端末 3 内の記憶部に設け、注文受付サーバ 1 が店舗端末 3 内の在庫 DB 1 2 3 にアクセスできるようにしてもよい。

40

【 0 0 4 1 】

図 3 (D) に示すグループ DB 1 2 4 (「商品グループに所属する複数の所属商品とグループ名とを対応付けて商品グループを記憶する記憶手段」 の一例) には、グループ ID 毎に、グループ名称、所属商品数、所属商品 ID が登録されている。グループ ID で識別されるグループは複数の商品で構成される。グループ名称は、グループに対して与えられた名称である。所属商品数は、グループに含まれる商品の数である。所属商品 ID は、グ

50

グループに属する商品の商品IDである。グループには複数の商品が属することから、各商品の商品IDが所属商品ID(1)、・・・、所属商品ID(n)として登録される。

【0042】

ここで図4を参照してグループDB124の登録例について説明する。図4には、グループの一例として、「すき焼き」グループ、「朝食」グループ、「夜食」グループなどが示されている。例えば、「夜食」グループに属する商品は、カップラーメン、冷凍焼きおにぎり、コーヒー及びココアであることが示されている。この場合、グループDB124には、「夜食」グループについて、「夜食」がグループ名称として登録される。また、カップラーメン、冷凍焼きおにぎり、コーヒー及びココアにそれぞれ対応する商品IDが、所属商品ID(1)～所属商品ID(4)として登録され、「4」が所属商品数として登録される。このように、グループDB124に登録されている各グループには、同時に購入すべき複数の商品が登録されている。

10

【0043】

なお、「玉ねぎ」が「すき焼き」グループ、「バーベキュー」グループ、「肉じゃが」グループ及び「カレー」グループの各グループに属しているように、一の商品が複数のグループに属することもある。

【0044】

図3(E)に示す商品所属グループDB125には、商品ID毎に、当該商品IDで識別される商品が属するグループのグループID(「所属グループID」という)が登録されている。一の商品が複数のグループに属する場合には、それぞれのグループのIDが所属グループID(1)、・・・、所属グループID(n)として登録される。なお、商品所属グループDB125には、何れのグループにも属さない商品の商品IDは登録されていない。

20

【0045】

図3(F)に示す注文受付DB126には、注文受付ID毎に、商品を注文した会員の会員ID、注文先店舗の店舗ID、届先名称、届先住所、届先電話番号、配達指定日時、合計金額、支払方法、注文(1){商品ID、注文数量}、・・・、注文(n){商品ID、注文数量}が登録されている。なお、注文(1)の商品IDは、1品目の注文商品の商品IDを示し、注文(1)の注文数量は、1品目の注文商品の注文数量を示している。

【0046】

また、記憶部12には、ショッピングサイトのWebページを構成する各種HTML(Hyper Text Markup Language)文書、画像データ、音声データ、テキストデータ等が記憶されている。

30

【0047】

更に、記憶部12には、各種プログラムが記憶されている。具体的には、所定のOS(Operating System)、WWW(World Wide Web)サーバプログラム、及びショッピング処理プログラム等が記憶されている。WWWサーバプログラムは、HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)プロトコルを用いて、ユーザ端末2等から送信されたリクエストに応じて、記憶部12に記憶されている各種のデータに基づきWebページをユーザ端末2等に送信するためプログラムである。ショッピング処理プログラムは、ショッピングサイトにおける商品の検索、購入等に関する処理を行うプログラムである。なお、各種プログラムは、例えば、他のサーバ装置等からネットワークNWを介して取得されるようにしても良いし、CD-ROM等のディスクDKに記録されてドライブ部を介して読み込まれるようにしても良い。

40

【0048】

入出力インターフェース部13は、通信部11及び記憶部12とシステム制御部14との間のインターフェース処理を行うようになっている。

【0049】

システム制御部14は、CPU(Central Processing Unit)14a、ROM(Read Only Memory)14b、RAM(Random Access Memory)14c等により構成されている。

50

そして、システム制御部 14 は、CPU 14 a が、ROM 14 b や記憶部 12 に記憶された各種プログラムを読み出し実行することにより、受信手段、抽出手段、及び送信手段等として機能する。

【0050】

なお、注文受付サーバ 1 を、例えば、各種データベースを管理するサーバ、商品の検索処理を行う検索処理サーバ、各種情報を提供する WWW サーバ等の複数のサーバ装置により構成しても良い。

【0051】

[3 . 商品選択画面]

次に、ユーザが注文商品を選択する際に、ユーザ端末 2 のディスプレイに表示される商品選択画面について、図 5 を用いて説明する。

【0052】

まず、商品選択画面が表示されるまでの流れを簡単に説明する。注文受付サーバ 1 のシステム制御部 14 は、ユーザ端末 2 から送信された会員 ID 及び認証パスワードに基づいてログイン処理を行う。システム制御部 14 は、ログイン処理を正常に終了すると、商品選択画面用 Web ページを生成し、ユーザ端末 2 に送信する。ユーザ端末 2 は、商品選択画面用 Web ページを受信すると、商品選択画面用 Web ページに基づいて商品選択画面 200 をディスプレイに表示させる。

【0053】

図 5 に示すように、商品選択画面 200 の選択可能商品表示エリア 210 には、ユーザが選択することが可能な商品、すなわち、買い物かご 250 に登録することのできる商品が表示される。また、選択可能商品表示エリア 210 には、商品毎に、商品の注文数量を選択する際に用いられる注文数量選択ボックス 211、商品を買うかごに入れる際に用いられる買い物かごボタン 212、商品名称 213、商品の生産地 214、商品の価格（在庫 DB 123 の販売価格に対応）215 及び商品画像 216 が表示される。買い物かごボタン 212 が押下（クリック）された商品については、注文数量選択ボックス 211 内に表示されている注文数量にて買い物かご 250 に登録されることとなる。また、買い物かご 250 内には、買い物かご 250 に登録された商品について会計を行う際に用いられる会計ボタン 251 が設けられており、会計ボタン 251 が押下（クリック）されると会計画面（図示しない）へと画面が遷移することとなる。

【0054】

また、選択可能商品表示エリア 210 の上方には、選択可能商品表示エリア 210 に表示する商品を絞り込む際に用いられる大ジャンル選択エリア 201 a、中ジャンル選択エリア 201 b 及び小ジャンル選択エリア 201 c が設けられている。ユーザは、選択可能商品表示エリア 210 に表示させたい商品が属するジャンルを、大ジャンル、中ジャンル、小ジャンルの順で選択することにより、表示対象とすべき商品を絞り込むことができる。

【0055】

選択可能商品表示エリア 210 の下方には、買い物かご 250 が設けられている。買い物かご 250 には、ユーザが押下（クリック）した買い物かごボタン 212 に対応する各商品について商品の名称、注文数量、販売価格、選択された商品の販売価格の合計額が表示される。

【0056】

選択可能商品表示エリア 210 の右方には、もしかしてエリア 270 が設けられている。もしかしてエリア 270 には、買い物かご 250 に登録された商品と同時に購入する蓋然性が高いと考えられる商品が提示される。買い物かご 250 に登録された商品と同時に購入される蓋然性が高いと考えられる商品とは、買い物かご 250 に登録された商品と同じグループに属する商品である。

【0057】

図 5 に示すように、もしかしてエリア 270 には、グループ商品表示エリア 271 が表

10

20

30

40

50

示される。グループ商品表示エリア 271 には、買い物かご 250 に登録された商品（「登録商品」という）と同じグループに属する商品であって、登録商品を除く商品の一覧が表示される。登録商品が複数のグループに属する場合には、そのグループ毎にグループ商品表示エリア 271 が表示される。この場合、後述する表示順位が高いグループほど、注文者が見やすいように画面上における上方に表示される。また、各グループ商品表示エリア 271 の上部には、グループ商品表示エリア 271 内に表示されている商品の属するグループ名称 272 が表示される。

【0058】

グループ商品表示エリア 271 には、商品毎に、商品の名称 273、販売価格 274、注文数量選択ボックス 275、及び買い物かごボタン 276 が表示される。ユーザは、注文数量選択ボックス 275 及び買い物かごボタン 276 に対して適宜操作することにより、商品を購入かご 250 に登録することができる。グループ商品表示エリア 271 に、当該グループ商品表示エリア 271 に表示されている全商品を例えば 1 つずつ購入する、という全商品購入ボタンを配置してもよい。

10

【0059】

なお、買い物かご 250 に商品が登録されていない状態では、もしかしてエリア 270 には何も表示されないか、又は、もしかしてエリア 270 そのものが表示されない。

【0060】

[4 . 注文受付サーバ 1 の動作]

図 6 を用いて、商品選択画面 200 がユーザ端末 2 のディスプレイに表示されている際の注文受付サーバ 1 及びユーザ端末 2 の動作について説明する。

20

【0061】

図 6 に示すように、ユーザ端末 2（具体的には、ユーザ端末 2 のシステム制御部）は、商品選択画面用 Web ページに基づいて商品選択画面 200 を表示させると、次いで、何れかの買い物かごボタン 212 が押下（クリック）されたか否かを判定する（ステップ S11A）。ユーザ端末 2 は、買い物かごボタン 212 が押下（クリック）されていないと判定した場合には（ステップ S11A：NO）、ステップ S17A の処理に移行する。一方、ユーザ端末 2 は、買い物かごボタン 212 が押下（クリック）されたと判定した場合には（ステップ S11A：YES）、押下（クリック）された買い物かごボタン 212 に対応する商品を購入かご 250 に登録する（ステップ S12A）。次いで、ユーザ端末 2 は、買い物かご 250 に登録した商品に関する登録商品情報（少なくとも商品 ID を含む）を注文受付サーバ 1 に送信する（ステップ S13A）。

30

【0062】

他方、注文受付サーバ 1 のシステム制御部 14 は、商品選択画面用 Web ページの送信後、登録商品情報を受信したか否かを判定する（ステップ S11B）。システム制御部 14 は、登録商品情報を受信していないと判定した場合には（ステップ S11B：NO）、ステップ S20B の処理に移行する。一方、システム制御部 14 は、登録商品情報を受信したと判定した場合には（ステップ S11B：YES）、次いで、所属グループを抽出する（ステップ S12B）。具体的には、受信した登録商品情報に含まれる商品 ID に基づいて商品所属 DB 125 を参照し、その商品 ID で特定される商品が所属するグループの所属グループ ID を取得する。

40

【0063】

次いで、システム制御部 14 は、所属グループを抽出できたか否かを判定する（ステップ S13B）。システム制御部 14 は、所属グループを抽出できなかったと判定した場合、すなわち、商品所属 DB 125 に登録商品情報に含まれる商品 ID が登録されていなかった場合には（ステップ S13B：NO）、ステップ S20B の処理に移行する。一方、システム制御部 14 は、所属グループを抽出できたと判定した場合には（ステップ S13B：YES）、次いで、抽出した所属グループの数は複数であるか否かを判定する（ステップ S14B）。ここで、抽出した所属グループの数とは、ユーザ端末 2 にて商品選択画面が表示されてからステップ S12B の処理で所属グループを抽出した数である。但し、

50

後述するステップ S 1 7 B の処理で非表示とすることを決定したグループは数えない。

【 0 0 6 4 】

システム制御部 1 4 は、抽出した所属グループの数は複数ではないと判定したときには（ステップ S 1 4 B : N O ）、ステップ S 1 6 B の処理に移行する。一方、システム制御部 1 4 は、抽出した所属グループの数は複数であると判定したときには（ステップ S 1 4 B : Y E S ）、各所属グループの表示順位付けを行う（ステップ S 1 5 B ）。具体的には、システム制御部 1 4 は、抽出した所属グループのグループ I D （所属グループ I D ）に基づいてグループ D B 1 2 4 を参照し、所属グループ毎に、所属商品 I D を全て取得する。そして、買い物かご 2 5 0 にその時点で登録されている全ての商品の商品 I D と比較し、一致した数が多い所属グループ程上位となるように順位付けを行う。なお、一致した数が同数である所属グループが複数ある場合には、予め定めた規則（例えば、グループ I D の昇順）に従って順位付けを行う。なお、表示順位が上位のグループほど注文者が見やすいように、もしかしてエリア 2 7 0 の上部に表示される。

10

【 0 0 6 5 】

次いで、システム制御部 1 4 は、所属商品を取得する（ステップ S 1 6 B ）。具体的には、システム制御部 1 4 は、抽出した所属グループのグループ I D （所属グループ I D ）に基づいてグループ D B 1 2 4 を参照し、所属グループ毎に、所属商品 I D を全て取得する。但し、ステップ S 1 5 B の処理で取得している場合にはステップ S 1 6 B の処理を省略することができる。

【 0 0 6 6 】

次いで、システム制御部 1 4 は、非表示グループチェックを行う（ステップ S 1 7 B ）。具体的には、ステップ S 1 2 B の処理で抽出したグループの中に、所属商品が全て買い物かご 2 5 0 に登録済みであるグループがあるかチェックする。全ての所属商品が買い物かご 2 5 0 に登録済みであるグループについては、後続の処理の対象としないことで、もしかしてエリア 2 7 0 に表示させない（すなわち、非表示グループとする）。

20

【 0 0 6 7 】

次いで、システム制御部 1 4 は、ステップ S 1 2 B の処理で抽出したグループ毎に、表示させる所属商品を限定し、商品情報を取得する（ステップ S 1 8 B ）。具体的には、システム制御部 1 4 は、ステップ S 1 6 B の処理（或いはステップ S 1 5 B の処理）において、グループ毎に取得した所属商品 I D から、その時点で買い物かご 2 5 0 に登録済みである商品の商品 I D を表示対象から削除することにより、表示させる所属商品の商品 I D を限定する。そして、表示させる所属商品の商品 I D に基づいて在庫 D B 1 2 3 を参照して、販売価格等の商品情報（所属商品情報）を取得する。

30

【 0 0 6 8 】

次いで、システム制御部 1 4 は、所属商品情報及び順位情報（ステップ S 1 5 B の処理を行った場合のみ）に基づいて、もしかして表示データ（「商品表示データ」の一例）を生成してユーザ端末 2 に送信する（ステップ S 1 9 B ）。もしかして表示データは、もしかしてエリア 2 7 0 の表示を更新するためのデータである。

【 0 0 6 9 】

他方、ユーザ端末 2 は、ステップ S 1 3 A の処理で登録商品情報を送信した後は、注文受付サーバ 1 からもしかして表示データを受信するか（ステップ S 1 4 A ）、又は、登録商品情報を送信してから所定時間が経過するまで（ステップ S 1 6 A ）、待機する（ステップ S 1 4 A : N O 、ステップ S 1 6 A : N O ）。所定時間は、ユーザ端末 2 と注文受付サーバ 1 間における登録商品情報及びもしかして表示データの送受信に要する時間と、注文受付サーバ 1 が登録商品情報を受信（ステップ S 1 1 B ）してからステップ S 1 9 B の処理を行うまでに要する時間とを合算した時間に、所定の余裕時間を更に合算した時間とする。

40

【 0 0 7 0 】

ユーザ端末 2 は、注文受付サーバ 1 からもしかして表示データを受信したと判定すると（ステップ S 1 4 A : Y E S ）、受信したもしかして表示データに基づいて商品選択画面

50

200のもしかしてエリア270を更新し(ステップS15A)、ステップS17Aの処理に移行する。また、ユーザ端末2は、登録商品情報を送信してから所定時間が経過したと判定した場合には(ステップS16A: YES)、ステップS17Aの処理に移行する。

【0071】

ユーザ端末2は、ステップS11Aの処理において、買い物かごボタン212が押下(クリック)されていないと判定した場合(ステップS11A: NO)、ステップS15Aの処理を終えたとき、又はステップS16Aの処理において、所定時間が経過したと判定した場合には(ステップS16A: YES)、次いで、会計ボタン251が押下(クリック)されたか否かを判定する(ステップS17A)。ユーザ端末2は、会計ボタン251が押下(クリック)されていないと判定した場合には(ステップS17A: NO)、ステップS11Aの処理に移行する。一方、ユーザ端末2は、会計ボタン251が押下(クリック)されたらと判定した場合には(ステップS17A: YES)、会計リクエスト情報を注文受付サーバ1に送信し(ステップS18A)、当該フローチャートにおける処理を終了する。

10

【0072】

他方、注文受付サーバ1のシステム制御部14は、ステップS11Bの処理において、登録商品情報を受信していないと判定した場合(ステップS11B: NO)、又はステップS19Bの処理を終了したときには、次いで、会計リクエスト情報を受信したか否かを判定する(ステップS20B)。システム制御部14は、会計リクエスト情報を受信していないと判定した場合には(ステップS20B: NO)、ステップS11Bの処理に移行する。一方、システム制御部14は、会計リクエスト情報を受信したと判定した場合には(ステップS20B: YES)、当該フローチャートにおける処理を終了する。

20

【0073】

次に、図4及び図6に示す例を用いて、具体例を示しつつ、グループ商品表示エリア271に表示される商品がどのように決定されるかについて説明する。なお、グループDB124には、図4に示すグループのみが登録されていることとし、各グループに所属する商品も図4に示す商品のみが登録されていることとする。

【0074】

まず、商品選択画面200の買い物かご250に商品が登録されていない状態において、「豆腐」に対応する買い物かごボタン212が押下されたとする。ユーザ端末2は、当該操作を検出すると(ステップS11A: YES)、「豆腐」を買い物かご250に登録し(ステップS12A)、「豆腐」の商品IDを含む登録商品情報を注文受付サーバ1に送信する(ステップS13A)。注文受付サーバ1のシステム制御部14は、登録商品情報を受信すると(ステップS11B: YES)、「豆腐」が属するグループを抽出する(ステップS12B)。ここで、「豆腐」が属するグループは、図4に示すように、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループであるので、これら2つのグループを抽出する。

30

【0075】

システム制御部14は、2つのグループを抽出すると、ステップS13Bの処理及びステップS14Bの処理を「YES」と判定し、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループについて表示順位付けを行う(ステップS15B)。この時点では、「すき焼き」グループに属する商品であって、買い物かご250に登録されている商品は1つ(「豆腐」のみ)であり、一方、「麻婆豆腐」グループに属する商品であって、買い物かご250に登録されている商品の数は1つ(「豆腐」のみ)である。つまり、同数なので、順位付けは、予め定めた規則(例えば、グループIDの昇順)に従って行われる。但し、例えば、既に「白菜」が買い物かご250に登録済みであるような場合には、「白菜」及び「豆腐」の2つの商品が属する「すき焼き」グループの優先順位が上位となるように順位付けが行われる。

40

【0076】

50

次いで、システム制御部 14 は、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループについて所属商品を取得する（ステップ S 16 B）。すなわち、「すき焼き」グループについては所属商品として、「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「しらたき」、「豆腐」、「春菊」、及び「玉ねぎ」を取得する。また、「麻婆豆腐」グループについては所属商品として、「ねぎ」、「豆腐」、「豚肉」、「豆板醤」、「にんにく」、及び「しょうが」を取得する。

【0077】

次いで、システム制御部 14 は、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループについて非表示グループチェックを行う（ステップ S 17 B）。この時点では、買い物かご 250 に登録されている商品は「豆腐」のみであるので、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループの何れも非表示グループとはならない。

10

【0078】

次いで、システム制御部 14 は、「すき焼き」グループと、「麻婆豆腐」グループについて表示させる所属商品を限定し、限定された所属商品情報を取得する（ステップ S 18 B）。「すき焼き」グループについては、所属商品「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「しらたき」、「豆腐」、「春菊」、及び「玉ねぎ」から、買い物かご 250 に登録済みの「豆腐」を削除することにより、表示させる所属商品を「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「しらたき」、「春菊」、及び「玉ねぎ」に限定する。同様に、「麻婆豆腐」グループについて、「豆腐」を除いた「ねぎ」、「豚肉」、「豆板醤」、「にんにく」、及び「しょうが」に表示させる所属商品を限定する。そして、システム制御部 14 は、限定した所属商品について、在庫 DB 123 から販売価格等の所属商品情報を取得する。

20

【0079】

次いで、システム制御部 14 は、もしかして表示データをユーザ端末 2 に送信する（ステップ S 19 B）。ここで送信されるもしかして表示データは、「すき焼き」グループを「麻婆豆腐」グループよりも上方に表示させる表示データであって、且つ、「すき焼き」及び「麻婆豆腐」のグループ名と各グループに所属する所属商品を表示させるデータである。

【0080】

ユーザ端末 2 はもしかして表示データを受信すると（ステップ S 14 A : YES）、図 5 に示すように商品選択画面 200 を更新する（ステップ S 15 A）。

30

【0081】

次いで、商品選択画面 200 にて、「しらたき」に対応する買い物かごボタン 212 が押下されたとする。ユーザ端末 2 は、当該操作を検出すると（ステップ S 11 A : YES）、「しらたき」を買い物かご 250 に登録し（ステップ S 12 A）、「しらたき」の商品 ID を含む登録商品情報を注文受付サーバ 1 に送信する（ステップ S 13 A）。注文受付サーバ 1 のシステム制御部 14 は、登録商品情報を受信すると（ステップ S 11 B : YES）、「しらたき」が属するグループを抽出する（ステップ S 12 B）。ここで、「しらたき」が属するグループは、図 4 に示すように、「すき焼き」グループと、「肉じゃが」グループであるので、これら 2 つのグループを抽出する。

【0082】

40

システム制御部 14 は、2 つのグループを抽出すると、ステップ S 13 B の処理及びステップ S 14 B の処理を「YES」と判定し、次いで、「すき焼き」グループ、「麻婆豆腐」グループ、及び「肉じゃが」グループについて表示順位付けを行う（ステップ S 15 B）。この時点では、「すき焼き」グループに属する商品であって、買い物かご 250 に登録されている商品は 2 つ（「豆腐」と「しらたき」）であり、「麻婆豆腐」グループに属する商品であって、買い物かご 250 に登録されている商品の数は 1 つ（「豆腐」のみ）であり、「肉じゃが」グループに属する商品であって、買い物かご 250 に登録されている商品の数は 1 つ（「豆腐」のみ）である。したがって、「すき焼き」グループの優先順位が「1 位」となる。「麻婆豆腐」グループと「肉じゃが」グループは同数なので予め定めた規則に従って順位付けが行われる。

50

【 0 0 8 3 】

次いで、システム制御部 1 4 は、「すき焼き」グループ、「麻婆豆腐」グループ、及び「肉じゃが」グループについて所属商品を取得する（ステップ S 1 6 B）。但し、「すき焼き」グループ及び「麻婆豆腐」グループについては、前回のステップ S 1 6 B の処理で所属商品を取得済みであるので、前回の情報を保持しておくことで当該処理を省くことができる。「肉じゃが」グループについては所属商品として、「しらたき」、「玉ねぎ」、「豚肉」、「じゃがいも」及び「にんじん」を取得する。

【 0 0 8 4 】

次いで、システム制御部 1 4 は、「すき焼き」グループ、「麻婆豆腐」グループ、及び「肉じゃが」グループについて非表示グループチェックを行う（ステップ S 1 7 B）。この時点では、買い物かご 2 5 0 に登録されている商品は「豆腐」及び「しらたき」だけであるので、「すき焼き」グループ、「麻婆豆腐」グループ、及び「肉じゃが」グループの何れも非表示グループとはならない。

【 0 0 8 5 】

次いで、システム制御部 1 4 は、「すき焼き」グループ、「麻婆豆腐」グループ、及び「肉じゃが」グループについて表示させる所属商品を限定し、限定された所属商品情報を取得する（ステップ S 1 8 B）。「すき焼き」グループについては、「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「しらたき」、「豆腐」、「春菊」、及び「玉ねぎ」から、買い物かご 2 5 0 に登録済みの「豆腐」及び「しらたき」を削除することにより、表示させる所属商品を「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「春菊」、及び「玉ねぎ」に限定する。同様に、「麻婆豆腐」グループについては、表示させる所属商品を「ねぎ」、「豚肉」、「豆板醤」、「にんにく」、及び「しょうが」に限定する。更に「肉じゃが」グループについては、表示させる所属商品を「玉ねぎ」、「豚肉」、「じゃがいも」、及び「にんじん」に限定する。そして、システム制御部 1 4 は、限定した所属商品について、在庫 DB 1 2 3 から所属商品情報を取得する。但し、前回のステップ S 1 8 B の処理で所属商品情報を取得した商品に関しては、前回の情報を保持しておくことで当該処理を省くことができる。

【 0 0 8 6 】

次いで、システム制御部 1 4 は、もしかして表示データをユーザ端末 2 に送信する（ステップ S 1 9 B）。ここで送信されるもしかして表示データは、「すき焼き」グループを「麻婆豆腐」グループ及び「肉じゃが」グループよりも上方に表示させる表示データであって、且つ、「すき焼き」、「麻婆豆腐」、及び「肉じゃが」のグループ名と各グループに所属する所属商品を表示させるデータである。

【 0 0 8 7 】

ユーザ端末 2 はこれを受信すると（ステップ S 1 4 A : Y E S ）、商品選択画面 2 0 0 を更新する（ステップ S 1 5 A）。このとき、ユーザ端末 2 は「すき焼き」グループに対応するグループ商品表示エリア 2 7 1 を、「麻婆豆腐」グループに対応するグループ商品表示エリア 2 7 1、及び「肉じゃが」グループに対応するグループ商品表示エリア 2 7 1 よりも上方に表示する。

【 0 0 8 8 】

以上説明したように、本実施形態における注文受付サーバ 1 のグループ DB 1 2 4 には、複数のグループについて、各グループに所属する複数の所属商品（所属商品 ID で特定される商品）とグループ名称とが対応付けて記憶されており、システム制御部 1 4 は、注文者（「ユーザ」の一例）が注文することを予定している商品を注文商品（「注文予定商品」の一例）として買い物かごボタン 2 1 2 を押下することで選択される都度、選択された注文商品を示す登録商品情報（「注文予定商品情報」の一例）をユーザ端末から受信し、受信した登録商品情報の示す注文商品が属するグループを、グループ DB 1 2 4 に登録されているグループの中から抽出し、抽出したグループの所属商品とグループ名とを表示させるためのもしかして表示データ（「商品表示データ」）をユーザ端末 2 に送信する。本実施形態における注文受付サーバ 1 のシステム制御部 1 4 は、受信手段、抽出手段、及び送信手段として機能することができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 8 9 】

本実施形態における注文受付サーバ1によれば、注文者が注文商品の一つを選択する都度、選択した商品と同じグループに属する商品とそのグループの名称とともにグループ毎にユーザ端末に表示させることができる。これにより、グループに所属する他の商品が必要な場合に、注文者の買い忘れが生じる可能性を低くすることができる。ユーザは通常、商品を注文する際には最終的な使用方法及び目的を念頭においていることが多い。そのため、最終目標に必要なもののうち1つでも商品が足りない場合には、ユーザが想定していた使用方法を実現できない場合もありうる。そのため、最終目標又は使用方法を前提としたグループに基づいて買い物かごにない商品を提案することによって、ユーザの買い忘れを抑制することが可能となる。なお、本実施形態においては、一つ商品が買い物かご250

10

【 0 0 9 0 】

特に、ショッピングサイトで注文した商品に買い忘れがあった場合には、後から別途注文しても、商品が同時に到着しないおそれあり、注文者にとって不便である。そのため、ショッピングサイトにおいては買い忘れの抑制がより一層強く望まれている。

【 0 0 9 1 】

また、買い忘れないまでも、ユーザがグループに所属する他の商品の注文も考えていた場合に、それらの商品を検索等して1つ1つ注文する煩雑さを抑制することができる。さらには、ユーザが想定していた使用方法以外の使用方法が提案されることによって、ユーザが想定できなかったより好適な使用方法への変更にも対応することが可能となる。

20

【 0 0 9 2 】

また、本実施形態におけるもしかして表示データは、当該もしかして表示データ(「商品表示データ」の一例)で表示されるグループ(「商品グループ」の一例)の所属商品を注文者が個別に注文商品として選択できるように商品選択画面を更新させるデータである。したがって、注文者はグループ単位で商品を購入しなければならないということはなく、注文者が必要とする商品のみを選択して購入することができる。よって、そのときに不要なもの(例えば、すき焼きを作るつもりだったとして、「すき焼き」グループには玉ねぎが含まれているけれど、玉ねぎは持っているので買う必要がないとき)まで注文することなく、グループに所属する他の商品を注文することができる。

30

【 0 0 9 3 】

また、本実施形態における注文受付サーバ1のシステム制御部14(「抽出手段」の一例)は、複数のグループを抽出する場合に、抽出する複数のグループに対して、買い物かご250に登録された商品が所属商品である数が多いグループから順に表示順位をつけ、もしかして表示データは、表示順位が上位であるグループの所属商品及びグループ名を優先して表示させる。

【 0 0 9 4 】

買い物かご250に登録された商品を多く含むグループほど、ユーザが当該グループに属する商品を購入する蓋然性が高いと考えられる。本実施形態における注文受付サーバ1によれば、注文者が購入する蓋然性が高い商品を優先して提示することができ、注文者の利便性を向上させることができる。

40

【 0 0 9 5 】

また、本実施形態におけるもしかして表示データは、全ての所属商品が買い物かご250に登録されているグループ以外のグループについて、所属商品とグループ名とを表示させる。すなわち、例えば上記実施形態において、「すき焼き」グループに所属する「牛肉」、「白菜」、「ねぎ」、「しらたき」、「豆腐」、「春菊」、及び「玉ねぎ」がすべて、買い物かご250に登録済であった場合には、「すき焼き」グループ以外である「麻婆豆腐」グループ及び「肉じゃが」グループの所属商品とグループ名とが表示されるもしかして表示データによって、ユーザ端末に表示されることとなる。

50

【 0 0 9 6 】

本実施形態における注文受付サーバ1によれば、買い忘れ防止の観点から注文者に提示する必要のないグループに属する商品を提示しなくて済むことから、ユーザ端末上において商品選択画面の視認性を向上させることができる。

【 0 0 9 7 】

また、本実施形態における注文受付サーバ1のグループDB124に登録されているグループの一部は、料理のレシピに基づく。したがって、料理に用いられる商品について買い忘れが生じる可能性が低いことから、買い忘れにより料理が出来ずに他の材料が無駄になるなどの不利益が生じることを防止することができる。

【 0 0 9 8 】

本実施形態における商品選択画面に表示され、注文者が注文商品として選択する商品は、ネットスーパーで扱われている商品である。ネットスーパーでは、生鮮食品などの比較的単価の低い商品が大量に扱われており、1つの目的・使用方法（例えば、料理のレシピ）に対して関連性のある複数商品群が一度に購入されることも少なくない。本実施形態によれば、注文者は、グループに所属する商品群の中に買い忘れ商品がないか、確認しながら商品を選択することができる。

【 0 0 9 9 】

なお、本実施形態における注文受付サーバ1において所属グループを抽出する際（ステップS12B）には、受信した登録商品情報に含まれる商品IDに基づいて商品所属DB125を参照し、その商品IDで特定される商品が1つでも所属するグループの所属グループIDが取得される。しかしながら、ステップS12Bにおいて、所属する商品が2つ以上あるグループしか抽出されない、としてもよい。含まれる商品の数が多いほど、そのグループをグループ単位で購入する蓋然性が高いと考えられる。よって、属する商品の数が2つ以上であるグループしか提示しないことにより、グループ単位で購入する可能性が低いグループの提示によってユーザ端末の画面が煩雑になり、ユーザを混乱させることを抑制することができる。

【 0 1 0 0 】

[5 . 変形例]

上記実施形態において、注文受付サーバ1のシステム制御部14は、何れの注文者（会員）が商品を買利物かご250に登録した場合であっても、グループDB124、さらには商品所属グループDB125、に登録されたグループに基づいてもしかしてエリア270に表示するグループを抽出する構成となっている。この構成に関する変形例として、会員ID（会員）とグループID（グループ）とを対応付ける会員用グループDBを記憶部12に新たに設け、もしかしてエリア270に表示するグループを抽出する際には、買利物かご250に商品に登録した注文者と対応付けられているグループのみに基づいて抽出する構成としてもよい。

【 0 1 0 1 】

会員用グループDBにおいて、会員IDと対応付けられるグループIDは、グループDB124に登録されているグループのグループIDであってもよいし、会員が独自に作成したグループのグループIDであってもよい。グループDB124に登録されているグループのグループIDを会員IDと対応付けて登録する場合には、グループ設定画面（図示しない）にてグループDB124に登録されているグループの一覧を会員に提示し、もしかしてエリア270に表示するグループを選択してもらうこととする。

【 0 1 0 2 】

一方、会員が独自に作成したグループのグループIDを会員IDと対応付けて登録する場合には、会員が作成したグループ及びそのグループに属する商品を示すユーザ生成グループ情報をユーザ端末2から受信することとなる。例えば、グループ作成画面（図示しない）において、会員に、自分の行動特性に合致するグループ（例えば、好きな料理の材料からなるグループ、同時に購入することの多い商品からなるグループ）を作成させる。注文受付サーバ1は、作成されたグループに関するユーザ作成グループ情報をユーザ端末2

10

20

30

40

50

から受信する。システム制御部 14 は、ユーザ生成グループ情報を受信した場合には、生成されたグループに新たなグループ ID を付与した上でグループ DB 124 に登録する。そして、新たに付与したグループ ID と会員 ID とを対応付けて会員用グループ DB に登録する。このように、システム制御部 14 は、受信したユーザ作成グループ情報に基づいて、注文者（「ユーザ」の一例）により作成された商品グループとそれに所属する所属商品とグループ名とを、注文者のユーザ識別情報と対応付けて会員用グループ DB（「記憶手段」の一部の一例）に記憶させるグループ編集手段として機能する。

【0103】

ここで、当該変形例における注文受付サーバ 1 のシステム制御部 14 の動作例について説明する。システム制御部 14 は、図 8 のステップ S13B の処理において、所属グループを抽出できたと判定した場合に（ステップ S13B：YES）、次いで、抽出した所属グループが会員グループ DB に登録されているか否かを判定する。具体的には、ログイン処理のために取得した会員 ID に基づいて会員グループ DB を参照しグループ ID を取得する。そして、取得したグループ ID が、抽出した所属グループのグループ ID と一致するか否かを判定する。一致している場合には、抽出した所属グループが会員グループ DB に登録されていると判定する。システム制御部 14 は、抽出した所属グループが会員グループ DB に登録されていると判定した場合にのみステップ S15B の処理に移行し、一方、登録されていないと判定した場合には、ステップ S20B の処理に移行することとする。

10

【0104】

当該変形例によれば、会員が自分の行動特性に合わせてグループを対応付けておくことにより、会員の行動特性に合ったグループに基づいて商品を提示することができる。また、会員は自分の行動特性に応じたグループを予め作成しておくことで、当該グループに対応する商品を購入する際の買い忘れを防止することができる。

20

【0105】

特に、本変形例の注文受付サーバ 1 は、ネットスーパーサイトの注文受付サーバである。ネットスーパーでは一般にユーザは最終的な調理方法を念頭におきながら日々の食材を購入することが多い。そのため、会員の嗜好・生活パターンに沿ったグループを提示することは、会員であるユーザにとって利便性が高い。すなわち、例えば「カレー」グループに対し、豚肉を好むユーザには豚肉を含む「カレー」グループを提示でき、牛肉を好むユーザには牛肉を含む「カレー」グループを提示することができる。

30

【0106】

なお、当該変形例においては、会員がネットスーパーサイトにログインしている際に、自分の選択したグループ（或いは自分の作成したグループ）のみから、もしかしてエリア 270 に表示するグループを抽出することを希望するか否かを設定することができることとしてもよい。システム制御部 14 は、当該設定が「希望する」となっている場合にのみ、当該変形例を適用することとする。

【0107】

また、他の変形例として、グループ DB 124 に登録されている全グループ及び注文者（会員）自ら作成したグループの中から、もしかしてエリア 270 に表示するグループを抽出することとしてもよい。当該変形例によれば、グループ DB 124 に登録されているグループのみならず、注文者（会員）が作成したグループがもしかしてエリア 270 に表示される可能性がある。会員は、頻繁に同時購入する商品がある場合には、それらの商品を所属商品とするグループを作成しておくことで、それらの商品を同時購入する場合に漏れなく全ての商品を購入することができる。なお、当該変形例についても、会員が設定により当該変形例を適用するか否かを選択できることとしてもよい。

40

【0108】

最後に、本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。上記実施形態は、例示であり、本発明の特許請求の範囲に記載された技術的思想と実質的に同一な構成を有し、同様な作用効果を奏するものは、いかなるものであっても本発明の技術的範囲に包含される

50

。したがって、例えば、本発明に係る注文受付装置が注文を受け付ける商品は、ネットスーパーで扱う商品に限らず、それ以外の商品であってもよい。

【0109】

また、注文予定商品は、購入を目的として注文を予定する商品に限られず、例えばレンタル（賃貸）を目的として注文を予定する商品など、製造や配達等を目的とした注文を予定して依頼された商品を含む。

【符号の説明】

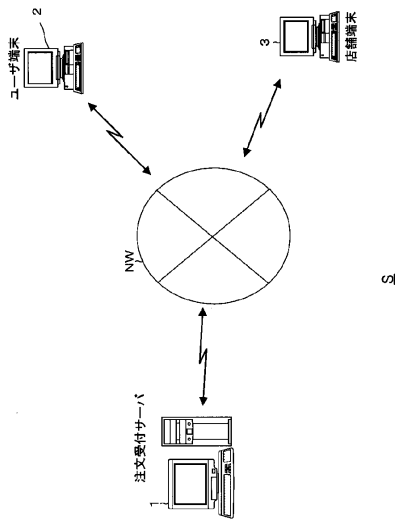
【0110】

- 1 注文受付サーバ
- 11 通信部
- 12 記憶部
- 121 会員DB
- 122 店舗DB
- 123 在庫DB
- 124 グループDB
- 125 商品所属グループDB
- 126 注文受付DB
- 13 入出インターフェース部
- 14 システム制御部
- 15 システムバス
- 2 ユーザ端末
- 3 店舗端末
- NW ネットワーク
- S 注文受付システム

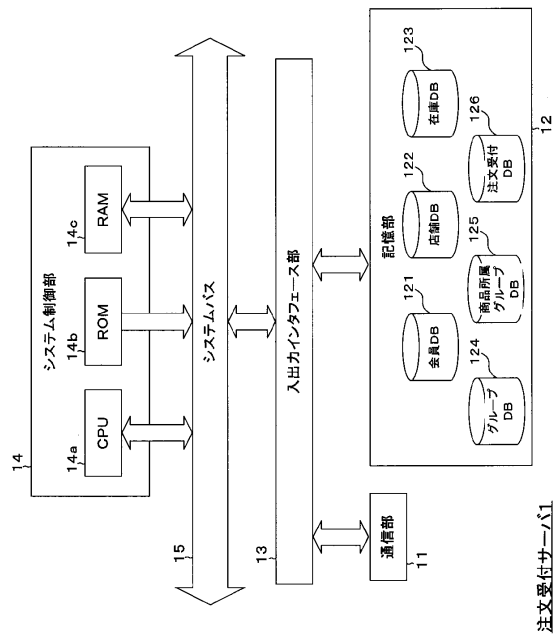
10

20

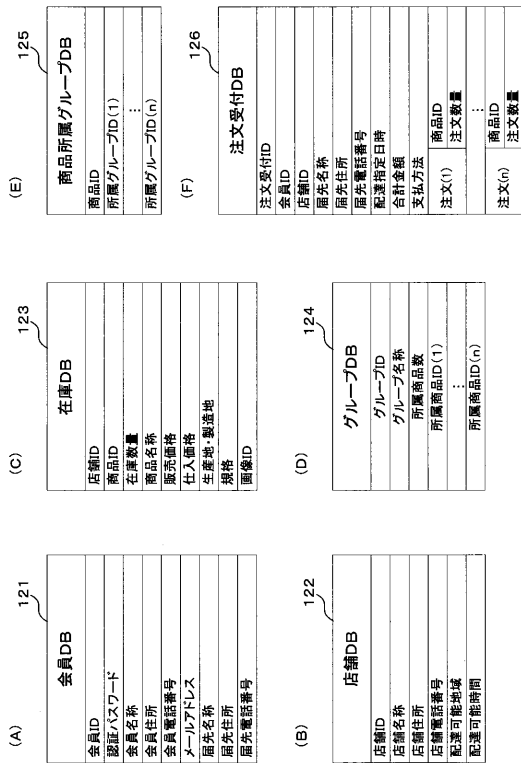
【図1】



【図2】



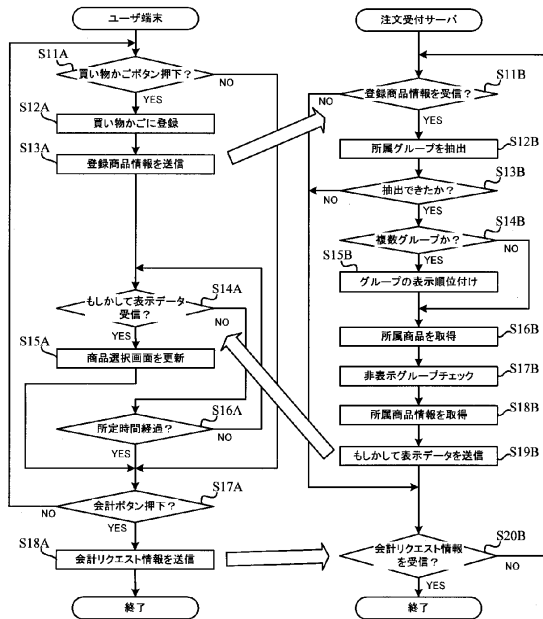
【図3】



【図4】

商品	グループ名称							
	すき焼き	朝食	夜食	バーベキュー	トナメル	肉じゃが	カレー	麻婆豆腐
牛肉				○				
白葱	○							
ねぎ	○							○
しらたき	○					○		
豆腐	○							○
春菊								
玉ねぎ	○			○		○	○	
食パン								
トマトソース		○						
卵		○						
トマト		○						
シタス		○						
ヨーグルト		○						
ジャム		○						
カップラーメン			○					
冷凍焼きおにぎり			○					
コーヒー			○					
ココア			○					
ピーマン				○				
なす				○				
ビール				○				
炭				○				
下着					○			
靴下					○			
せんべい					○			
シャンプー					○			
豚肉						○	○	○
じゃがいも						○	○	
にんじん						○	○	
カレールー						○	○	
らっきょう漬						○	○	
豆板醤								○
にんにく								○
しょうが								○

【図6】



【 図 5 】

XXXXXネットスーパー

201a 野菜・果物
魚
肉
惣菜
アイリー
冷凍・アイス
米・餅・パン・デザート

201b 野菜
サラダ野菜
旬の野菜
果物
旬の果物

201c *よく使う野菜 (100)
(96)
*豆類
*せのこ類
*葉物
*土物
*薬味・薬物

212 58円 カゴ 1個 かつ 茨城産

211 498円 カゴ 1個 カリフラワー 神奈川産

213 350円 カゴ 1個 キヤベツ 1玉 岩手産

214 198円 カゴ 1個 キヤベツ 1/2玉 岩手産

216 350円 カゴ 1個 アスパラガス 1袋 秋田産

215 350円 カゴ 1個 じゃがいも 1袋 北海道産

210 148円 カゴ 1個 ピーマン 干菜産

210 198円 カゴ 1個 ほうれん草 増玉産

210 89円 カゴ 1個 大根 1/2増玉産

210 168円 カゴ 1個 水菜 干菜産

210 599円 カゴ 1個 冷凍ベジタブル 米国産

210 308円 カゴ 1個 ラディッシュ 1束 増玉産

210 599円 カゴ 1個 じゃがいも 1袋 北海道産

210 198円 カゴ 1個 ハブリカ 理国産

210 198円 カゴ 1個 菜の花 1袋 茨城産

210 168円 カゴ 1個 サツマイモ 東筑産

210 59円 カゴ 1個 キュウリ 群馬産

210 298円 カゴ 1個 蓮根 1袋 長野産

210 350円 カゴ 1個 ゴーヤ 沖縄産

210 298円 カゴ 1個 菜の花 1袋 長野産

210 580円 カゴ 1個 アスパラガス 1袋 秋田産

210 350円 カゴ 1個 ゴーヤ 沖縄産

210 298円 カゴ 1個 蓮根 1袋 長野産

210 298円 カゴ 1個 菜の花 1袋 長野産

もしかして

270 すき焼き 1480円 カゴ 1個

272 牛肉 300円 カゴ 1個

272 白菜 158円 カゴ 1個

271 しらたき 100円 カゴ 1個

271 春菊 190円 カゴ 1個

271 玉ねぎ 350円 カゴ 1個

272 麻婆豆腐 158円 カゴ 1個

271 ねぎ 380円 カゴ 1個

271 豚肉 290円 カゴ 1個

271 豆板醤 150円 カゴ 1個

271 にんにく 200円 カゴ 1個

271 しょうが 273 274 275 276

買い物かご

お会計

合計 198円

1 ページ

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2002-163503(JP,A)
特開2004-288108(JP,A)
特開2001-306958(JP,A)
特開2008-282098(JP,A)
特開2006-202054(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G06Q 10/00-50/34
G06F 3/048